

市長室：対話の記録

要旨

開催内容の公開

対話の内容

市長のあいさつ(はじまり)

内容

市長のあいさつ(終わり)

第18回目となる今回は、市内の東鷹栖中央、東鷹栖東、東鷹栖西、東鷹栖北地区にお住まいの方をはじめとする市民の皆さんと懇談しました。

18人の方が参加し、地域特有の課題や、市政やまちづくりに対する意見など、活発な意見交換が行なわれました。



日時	平成19年10月29日(月) 午後6時30分～午後7時50分
場所	旭川市東鷹栖公民館 大ホール(旭川市東鷹栖4条3丁目)
出席者	・西川市長 ・市民(18人)

対話の内容

※参加者はアルファベット(A～F)で表しています。

同じアルファベットの表記は同一人であることを示しています。

市長あいさつ

皆さん、こんばんは。今日はあいにくの雨模様で屋根の上に雨が当たる音が聞こえている本当に悪天候の中ではありますが、東鷹栖の皆さまには今日の対話集会にお集まりいただきまして本当にありがとうございます。昨年の11月に市長に就任させていただいて1年が経過しようとしております。これまで地域の皆さま、また様々な団体の皆さんと対話を重ねてまいりまして、今日は東鷹栖の4つの市民委員会の皆さま方にご案内をさせていただいてお集まりをいただいております。またこの地域以外の方もいらっしゃるかもしれません。旭川の市政や地域づくり、またまちづくりに対しての皆さまのいろいろなご意見もいただくことができればと思っております。またその中で行政に反映させていただけるようなものにつきますとは、ぜひ検討を重ねて事業化をしていきたいということで、これまでも取り組んできております。今日も皆さんからのご意見の中で、実現できるものが一つ二つと見出すことができたらという思いでおりますので、いろいろ教えていただきたいと思っております。

東鷹栖は、農業を基幹産業の中心とした地域ではないかなと思っております。東鷹栖の皆さま方には、日頃から地域の農業を守り育てていただくという部分で、大変私どもも力

をいただいているわけであります。お米に関しては収穫を無事終えて、まだ他の作物については、これから収穫するものもあるかもしれませんが、今年も大きな天災に見舞われることなく無事収穫を終えることができたのかなと思っております。しかしながら、お米の価格ですとか、またいろいろな農作物の需給の関係、また海外からの輸入、EPA(経済連携協定)の問題などで、必ずしも北海道の農業がいい状態ではないというような危機感を持っていますが、旭川ブランドの創出、またどうやって農作物の付加価値を地域一丸となって上げて売り出していくことができるか、また地域には食品加工の業者さんたくさんおりますが、こういったところと連携をとりながら、農業出荷額、産業出荷額の向上ということが今後の旭川の産業、製造業を伸ばしていく上での柱になるのではないかなと思っております。今、庁内でいろいろな検討を重ねているところがございます。また20年度以降、具体的な事業として予算をつけて取り組んでいきたいということで、今、いろいろと関係する方々と意見交換をさせていただいているところでもあります。



またこちらは、末広との境がちょうど物流団地になっており、多くの企業に立地していただいていたたり、またインターチェンジがすぐそばにありますので、交通の拠点という役割も担ってきているのではないかなと思っております。旭川の北インターチェンジから上川支庁の前を抜けて、空港まで行くという道路の整備もまだ完成はしていないのですが、今、計画の中にございまして、そういった部分ではインターチェンジと空港という、旭川市内での大きな輸送や人の移動や動線となる、そういった将来の可能性を秘めた地域でもあるという認識を持っております。また自然もたくさんあり、男山や突哨山ですとか、少し春光台にもかかるんでしょうけど、畜産公社ですとか、そういった酪農関係の方も若干いたりといった地域ではないでしょうか。

今まで対話集会でいろいろなご意見をいただいて、既に事業化してきているものもございますし、財政的な部分で、例えば道路や橋の建設という地域の要望という部分では、若干時間のかかるものもございます。このように長期的なものの中にはあるということも、ご理解、またお許しをいただきたいと思っております。こちらの地域では、例えば物流団地での二期、三期工事というような地域のご要望も今まできておりますし、また北インターから3線道路でしょうか、交通量が多いので路線の幅員の件ですとか、そういったご要望もございます。また東鷹栖の中学校のグラウンドの整備の件や、公民館の第4分館の改修のご要望といったものも市では受けております。また後ほどご質問があれば、現状についてお伝えすることができるかと思いますが、それに限らずいろんな皆さまの思いをお聞かせいただければと思っております。

今、市においても、経済の活性化という部分では先ほど申し上げた食品、またグリーンツーリズムと本州からの修学旅行の受け入れ、特に農業体験を含めたものをこれからも増やしていきたいと思っておりますし、また空港の国際化と活性化という課題も今取り組んでおります。またこれは内部的な話ではありますが、市役所の機構改革や財政の健全化ということにも同時進行で取り組んできております。これからも地域の高齢者の皆さんが安心して暮らすことができ、そしてまたお父さんやお母さんが安心して子育てをしていくことができるようなまちづくりということも大きな柱に掲げて頑張っていきたいと思っております。

以上冒頭簡単ではございますが、私からの皆さんへのごあいさつに代えさせていただきます。この後は皆さんからいろいろご提言などをいただくことができればと思いますので、8時まで1時間30分弱の限られた時間ではありますが、どうかお付き合いいただければと思います。皆さん今日はよろしく願いいたします。

男性A

高齢者の健康維持、また親睦、交流の場であるパークゴルフ場についてですが、パーク

ゴルフ場は旭川に12か所と非常にたくさんあり、また最近パークゴルフ人口は激増しています。東川などの周辺の町では本当に立派なパークゴルフ場があり、非常に有効に活用していますが、残念ながら旭川のパークゴルフ場はあまり管理が行き届いておらず、利用者も減っています。5年、10年前のパークゴルフ場をただつくれれば皆が来てくれるという時代は終わり、最近是有料でも管理の行き届いた所に行くという人たちが大半です。1日コースをまわって500円程度であればそこに行くんですね。そこで、旭川市では周辺の町よりも若干安い300円程度にして、利用者を増やし、もう少しコースをよくしてほしいと思います。

また、芝刈り機などの器具を使える高齢者をボランティアとして募集して採用すれば、生きがいつくりにもなるし、またコースも整備されてよいと思います。

市長

パークゴルフ場の件については、どこに行っても必ず同じご質問をいただいております。先日、私も東鷹栖のコースを見てきました。そこには散水設備がないものですから、非常に芝の状態が悪いという認識は持っております。私もこの件につきましては、どこに行っても言われるものですから、何とかこれは変えなければならぬと思っており、先日、市の公園みどり課とその件で打ち合わせをしました。今、秋月橋の下でボーリングをして、散水設備ができ、「ななかまどパークゴルフクラブ」が芝刈りなどのお手伝いしてくれています。このように、例えば地域でお手伝いしてもらえような団体のいるところには、今後管理を任せていくというようなことを、順次拡大していこうと思っております。またこちらの東鷹栖、対岸には永山の方にも18ホールのパークゴルフ場がありますが、18ホールですと、常時使われているとなかなか芝が養生できないということがあるのと、散水設備がないという問題があるものですから、こちらの方も順次ボーリングをして、散水設備を整備して、今後、きれいなグリーンに変えていこうという予定にしております。それができた時に地域の皆さんにそれぞれ管理をしていただくということで、委託するようなスタイルをとろうと思っております。料金についてですが、今の状態ですとあまりにひどすぎるので、料金をいただけるようなコースではありません。ですからきれいなコースにさせていただいて、それから幾らが適当なのかわかりませんが、料金をいただいて、何とか高いレベルを維持していこうという方針で、公園みどり課と先日話をしました。今後順次進めていきたいと思っております。

いつも財政的な理由を言って申し訳ないのですが、お金が潤沢にあれば1年、2年で全部できるのですが、この辺りがなかなか厳しいところで、今後数年かかって整備していくことになるのですが、先日、パークゴルフ協会からも同じようなご要望をいただきまして、それに沿って私どもも考えていきたいと思っております。また多分パークゴルフ人口はこれからもっともって増えていくと思いますので、質の高いパークゴルフ場を市民の皆さんに楽しんでいただくということで頑張っていきたいと思っております。

男性B

私は、近いうちに米農家をやめなければならないのですが、今、一番不安なのは農地を誰かに貸さなければならないということです。しかし、今は非常に後継者が少なく、また農地を借りてつくるということに対してものすごく負担がかかっているの、なかなか借り手がないという厳しい状況です。東鷹栖の農地は高い生産力を持っていますが、広範囲の農地を借りて農業をせざるを得なくなってくると、なかなか手が回らず生産力ダウンの方向に向かい、また就農者の身体に大変な負担がかかってしまうという状況に追い込まれてしまいます。ささやかではあるかもしれないけれども、この農地は旭川市の所得に貢献するするものがあると思います。そこで、既存の農家ばかりでなく、例えば今、会社を退職して60歳を過ぎた元気のいい人たちがたくさんいますが、その人たちに農家をやめようとしている人たちが技術を教え、また古い農機が余っていますので、それをメンテナンスして使用できるようにしておいて、既存の技術を持った農家とこれから農業を始めてみようという人とで新しい生産組織を考えることができないかと思っております。

農協も一生懸命頑張っておりますが、市としても新しい提言をして、また農地法などの法律面についてのいろんなアドバイスをしながら、全道トップレベルの生産量を維持し、しかも後継者の負担を少なくするような方法というものを模索していただきたいなと思います。農地を貸す方としては、小作料はいらないから借りてくれというような状況ですが、借りたくても借りられないという状況の後継者がたくさんいます。そういう状況を打破する、そしてこの高い生産力を誇るこの旭川の農地を守るために、私どもも知恵を集めようとしておりますけれども、市としてもその辺について考えていただきたいと思います。

例えば、私は農業をやめようとしていて、500haの農地を持っているとします。そこにはハウスの資材や農機具もあります。こういう農家が結構点在しています。それらを集めて、アドバイザーを置いて、その人を中心とした生産組織ができないでしょうか。資材もほとんど使えるわけですから、農機具を買う必要もなく、場合によっては苗も使えます。農業を始めてみようという人たちは、これまで会社という中で生きてきているので、経営者としてのノウハウを持っている人が多いと思います。しかも我々とは違う技術も持っています。米をつくるための必要な技術、苗や肥料の状態、生育状況を見極める力、こういうものについて我々はアドバイスできます。このような仕組みは将来的には可能ではないかと思えます。農地法の中で厳しく制約はされておりますけれども、それを打ち破るような市としての法的なアドバイスは可能ではないかと考えています。

市長

農地の集積や品目横断的経営安定対策の関係で法律も今年から変わったりという中で、これまで市もいろいろな事業を行ってきておりますが、なかなか生産者の立場の皆さんからすると、十分な決定打を見い出せていないという現状かなと思っています。しかし、今後とも後継者をどうやって見い出していくかということ、また農業をどうやって守っていくかということは非常に重要だと思っております。農協さんとも今後とも連携を取りながら、国や道の事業と連携したり、また市独自の事業なども展開してきておりますので、その辺りでまた農業者の皆さんともいろいろと意見交換できればと思っております。

お話しにありました仕組みづくりですが、市内でもそのように法人をつくってやっている方たちはたくさんいますし、農機具を共同で購入している法人なども東旭川の方にはあります。今、私どもも何とか法人化ですとか、大規模化、集団営農ということについて、市の大きな課題として取り組んでおります。もし東鷹栖でこの人だったらという方がいらっやったら、ぜひご推薦していただきたいと思えます。その人を核にして、法人化ですとか、いろんな部分で、ひとつの起爆剤にしていけたらなと思っております。いろいろな法律の壁もあるかもしれませんが、できる範囲内でしっかりと私どもも農地の集積を進めていきたいと思っております。

男性A

旭川市の緑化事業はどのように進められているのでしょうか。この緑化事業というものは世界規模で進められている中で、植林という事業に対してあまり市民が積極的に関わっていないように感じています。将来に向けて今以上に旭川を緑豊かにするために、市内の何か所かを森林化するというを決めて、毎年春と秋の2回、市民全員参加の植樹、植林の下刈り、手入れなどを市民の行事としてはどうでしょうか。

今から30年程前に下川町で預託林ということを行いました。全国に植林の預託をして20年、30年経った時に伐採すると、預託金の何倍かのお金を支払いますよ、ということをしていました。今はすごい森林となり、その森林を見るために、高いやぐらを建てて、全国から自分が植えた木がどうなったのか見られるようなユニークな場所をつくり、世界的に下川町は森林、植林のまちとして有名になっています。このようなことも参考とするといいと思えます。

市長

私どもも、特に市街地に関しては緑化を進めていかなければいけないということで、これ

まで地道な積み重ねですが、少しずつ街路樹を植樹してきておりますが、まだまだ市内では緑が少ない現状にあります。今後とも少しずつですが、緑を増やしていかなければならないという認識は持っております。また植樹する木はどのような種類がいいのかということもあると思います。最近いろいろなところでお聞きすると、白樺の木はあまり評判が良くないんですよね。アレルギーなどもあるそうなので。そういう影響のない木できれいな緑のある木というのがいいのかなと思っています。

一部市民の団体の皆さんが毎年植樹をしていますね。例えば、嵐山の方で桜を毎年何十本か植えていたりなど、いろいろな団体で行っているのですが、市民全体とか市役所が一丸となってということには行っていませんが、ひとつの市民活動としてはいいことだなとは思っておりますので、どの辺りに植樹するのがいいのかなどを含めて、もし何か良い案をいただければと思います。

預託林についてですが、そういうシステムをやっているというの、この前も新聞に出ていましたよね。旭川市としてはそういうのは取り組んでいませんが、事業の可能性について庁内で検討させていただきたいと思っています。

男性B

以前、物流団地の端、5線13号近辺に霊園を持って来るという構想がありました。それを持ってくることによって東鷹栖が喜ぶだろうというような話でしたが、私は、そこは東鷹栖の中心なので、将来的に発展性のあるものを持ってくるというのであればいいけれども、霊園も悪くはないのですがそれは終着駅であって、失礼だと言ったことがありました。

鷹栖インターにはイオンという大型店があり、インターを降りる時、まちの賑わいを感じますが、北インターは旭川市の入り口のひとつであるにもかかわらず、少しさびしい気がします。何か旭川市の活気を見せるような施設あるいは商業施設などの設置を将来的に都市構想の中に盛り込んでほしいと思います。他のまちのインターを降りましたら、そのまちが賑やかだなという印象を持つ時には、やはり何か刺激を与えるようなものがあります。せっかく遠くから旭山動物園を見にきてくれているにもかかわらず、この周辺には休憩するような場所はほとんどありません。やはり途中で止まって若干休憩しながら、多少お金を使っていたくような場所をこの北インターの顔として必要ではないかなと思いますので、この地域の都市計画を活性化できるような考え方で再検討していただきたい。36万人都市である旭川市にふさわしい、道北の入り口としてふさわしい、また東鷹栖の人口増加、活性化にかかわるような施策をお願いしたいと思います。

市長

本当に、東鷹栖の皆さんもそうですし、東旭川の皆さん、やはり農業地域の皆さんの切実な思いとして、地域の活性化についてはいろいろなお聞きをいたしております。私も、北インターの降りた所が寂しいという認識は持っております。都市計画で一帯が農地となっているものですから、なかなか簡単に変えるという状態にはないのですが、今後、市の全体の計画の中でどういうふうにあるべきか、北インターという旭川の顔ということで、この地域をどうしていけばいいのかという部分で検討に値するのかなとは思っております。

ただ、これはもう時代の流れなのでしょうけれども、全国で都市を縮小、コンパクトに中心市街地に人を集めていこうという流れになってきており、今、国も各自治体に奨励しています。日本の人口がこれからどんどん減っていきます。今は1億2千万人ですが、50年後くらいには1億人を切り、100年後には7千万人くらいになるという予想になっております。そこで国が都市をコンパクトにということを奨励しています。その中でなかなか私どもが郊外に開発を進めていくという都市計画の変更というのは、高度経済成長時代で、日本の人口がどんどん増えている時代であればできていたのですが、逆の時代になっているということをひとつ認識として持っていただければと思います。それとは別に北インターという旭川の顔を今後、市としてどう捉えていくかという問題点は私も持たせていただきたいと思っています。

男性C

ふれあい祭りや文化祭など地域の行事の際には、この公民館を使用していますが、公民館の利用が有料になったことについて、どれだけのメリット、デメリットがあったのか教えていただきたいと思います。

市長

有料化となったことによって、市内のいろいろな施設で若干利用者数は減っているというのが現状であります。無料であればもう少し利用者も増えていたのかなということもござりますが、利用者にある程度負担をしてもらう、受益者負担ということで、利用する人と利用しない人との公平、公正さを厳しい財政状況の中で保つていこうということで有料化となったという認識を持っておりませんが、そういった部分では市民の皆さんに若干の不便をおかけしているのではないかと感じております。ただ料金の有料化については、ぜひご理解いただきたいなという思いで、これからはしばらくはそういう流れでやっていかなければならないと思っておりますが、一方では利用者が少なくなったということで、逆に今まですごく混みすぎていた施設が若干余裕を持って使えるという良い面もあるのかなと思います。

男性A

市民文化会館についてお尋ねします。文化会館を借りることができるかどうかは、前年のくじ引きによって決められています。それにはずれると借りることができません。市は市民の文化活動を奨励するというので、様々な文化団体の意見を聴き、ぜひとも教育委員会と検討して、定期的に活動している文化団体には、毎年貸し出す日を決めていただきたいと思います。他にも施設はありますが、やはり文化会館が一番使い勝手がいいのです。入場料をとる類のものに対して貸すのは、使用料を多くとることができるので、その利益で施設を運営するというのもわかりますが、市民文化の向上という点から、ぜひ検討していただきたいと思います。

市長

文化会館の予約状況について、詳細を把握していないので、後日調べて庁内で検討して、何かよい方法が見い出せればと思います。

生活交流部長

文化会館につきましては、他の施設に大きなホールがあまりないので、多数の利用申込みがあり、確かに1年前の受付でくじ引きをさせていただくという状況になっております。音楽、演劇、芸能など様々な文化活動の団体の方がいらっしやる中で、一番公平ということで、くじ引きをしてきていると思っておりますが、生涯学習フェアのように、年に1度、市が各団体と協力して行っているものはありますが、やはり市民の方にとって使い勝手のよい方法、また市民の理解をどういただけるかということから検討していく必要があると思えます。そういう意味ではいろいろな課題もあると思えますし、その方向性もあると思えますので、関係部局ともその辺を協議させていただきたいと思えます。

男性D

過疎地の小学校の複式学級の増加や、また近文第1小学校でも非常に生徒数が減ってきていますが、まち中では生徒数が非常に集中している学校があります。生徒数が減少している学校に、スクールバスなどで生徒を集めてくることはどうでしょうか。農村地帯ののどかな風景、カエルやオタマジャクシなどを身近に見ることができる地域に、逆に人を持ってきてください、まちの方へ統合するのであれば複式であろうと統合であろうと、現状の少人数の中でやっていく方がよっぽどいいのではないかと思います。そうではなくて、こちらの学校の方に人を持ってきて、自然に恵まれた環境の中で子どもたちの教育をするという方に向かうべきではないでしょうか。自然に恵まれた地域の学校をどうやって活

用していくか、小中学校の適正配置の計画の中で検討していただきたいと思います。

約5haの自衛隊の跡地が東鷹栖5線14号にあります。夏場は雑草が生えて、冬は雪捨て場になっています。ここに野球場やサッカー場、パークゴルフ場などをつくるなど、人が集まる場所づくりを考えていただきたいと思います。国の土地ではありませんけれども、荒廃地のまま10年くらい経っていますので、何かそこに人が集まるものを持ってきていただきたいと思います。

市長

学校の件については、市内でも小規模校、児童数が少ない学校はたくさんあります。現時点で近文第1、近文第2小学校がすぐ閉校となるような計画はないと思います。将来的に今後の人口推移の中でという部分では可能性としてあるのかもしれませんが、学区の再編ということについて、私どもも教育委員会とそういう方法をとれるのかということも含めて検討していきたいと思います。東鷹栖に限らず農業地域において同じような課題があると思っておりますので、検討させていただきたいと思います。

また自衛隊の跡地についてですが、私は初めてお聞きしたものですから、これについてはまた調べさせていただきたいと思います。

生活交流部長

自衛隊の跡地について、旭川市の中の大規模な空き地ということでは意識しておりますし、いろいろと利用についてご意見をもらってはいますが、一つは市街化調整区域であるということと、やはり整備に一定の費用がかかるという問題がある中で、いろいろな案が出ては消え、過去には雪捨て場などにも使われていたこともありました。当然、市としても大規模な空き地という認識は持っており、もう10年間も何も進んでいないという現状にありますので、課題としては受け止めているのですが、具体的にどうするのかについてはまだある程度の時間がかかるのかと思っております。

企画財政部次長

多分今お話しになったのは自衛隊の通信基地があった所だと思います。財務省旭川財務事務所が管理していると思います。国の所有ということになりますと、その辺の判断というのが出てくるのかなと思いますが、地域の要望や意見があったということは市としても国に伝えていく必要があるのかなと思います。また市が所有している土地については、様々な団体からいろいろなかたちでの要望等がございますから、それらを踏まえて、有効に行政目的で使えるものを優先しながら判断をさせていただくということになると思います。

それから小学校についてですが、基本的に教育委員会で配置計画、見直しをするのですが、最優先すべきは子どもの教育環境をどう維持するかということだと思います。背景的には財政難というのがどこまでも付きまってくるのですが、やはり必要なのは子どもたちの教育をどう維持するかです。ですから場合によっては、複式、統合というかたちで、子どもたちをそちらに誘導することでより環境の良い場所で学習させることも当然必要だと思いますし、また全てまちの中心部に持っていくということではなくて、周辺校であっても、環境が良いたとかそういったもので必要なものはやはり残していくということも大事なことでございます。私どもの方からも教育委員会へ今日このお話を伝えていきながら、今後の検討の中で反映させていただきたいと思っております。

市長

今、市に特認校が富沢小学校、旭川第5小学校、桜岡中学校の3校あります、そこには全市内から通えるようになっております。今後ひとつの方法として、その特認校を増やしていくということもあるのかなと思います。東鷹栖の方には特認校がないんですね。

男性E

嵐山のパークゴルフ場の利用料金は非常に高いと思います。そのため利用者が少ないのだと思います。もう少し安くならないのでしょうか。他のパークゴルフ場も有料となると1週間、1か月と通う人は相当な金額になります。体育施設は市民の健康維持が目的ですから、料金を安くすることで、利用者も多くなり、病院に行く人も少なくなると思います。例えば年間通じての割引券などを考えてほしいと思います。

市長

市内の河川敷のパークゴルフ場は、多くの市民の方に利用していただきたいということで無料にさせていただいております。今後、有料とさせていただく時には、それなりに高いレベルの芝コースも要求されますし、また料金の設定については、例えば動物園のように年間パスポートを出したりなど、そういった方法も含めて検討したいと思います。行く回数が多い人は1回100円でも相当な額になると思いますので、料金設定についてはそういう認識を持って検討したいと思います。ただ有料化にするのが今年、来年ということではないので、一部整備が進んでいった所から順次有料にしていくということになるのかなと思っております。

男性A

旭川は雪のまちです。毎年何億円もかけて除雪しています。春になるとまたお金をかけて雪を融かしています。この除雪した雪を利用できないものでしょうか。雪が融けていく時の蒸気などをエネルギーとして利用していく取組は、規模は小さいですが名寄市で行っているようです。雪を使って農作物を保存し、通年また時季をずらして高く販売したり、ジャガイモを3年間保存したりしています。雪の中で保存することで味も良くなります。例えば、男山などの山をひとつくり抜いて、ドーナツ型の雪捨て場を造り、その真ん中を真夏の暑い時期の市民の憩いの場としたり、また農作物などを保存するなど、そのように利用するのはどうでしょうか。防衛庁の職員が、災害時の食料の保存基地ということであれば予算もつくと言っていました。旭川は災害が非常に少ない地域でありますので、全国的な災害が発生した時に、ここで備蓄していた食料を全国に配ることができます。ですからこの旭川市に食料の大備蓄基地をつくることを検討してみたいかと思いますが。

市長

すごく夢のあるスケールの大きな構想だなと思ってお聞きしておりました。今、雪を使った冷房ですとか、技術も大分進歩してきていると思います。緑が丘の北海道立北方建築総合研究所では地下に雪を溜めて、夏の冷房は全てその雪を利用しているんですね。サイパルでも似たようなことを行っています。また食料の備蓄や農作物などを時季をずらして出荷すれば、高く売れるというのもあります。しかし、多分すごくお金がかかるのではないかと思いますし、なかなか市だけではできない部分もありますので、もし防衛庁の予算だとかという部分で助けていただければ、私どもも検討させていただきたいと思います。

生活交流部長

雪捨て場の件について、河川敷に捨てた雪を何故お金をかけてまで融かしているのかということですが、これは春になって、近くにパークゴルフ場があることなどから、早く雪を溶かさなければならぬというのがあり、それから国や道の河川管理者から、早く雪を溶かすという条件で河川敷を借りているということもあります。

今、旭川市では春光台に常設といいますか、雪を融かさなくてもいいような掘り割り型の雪堆積場を造っているところです。新聞でご覧になったかもしれませんが、その中で今年、今のお話しにあった食料の貯蔵の実験や、市長が言った冷風を送れないかということ、それから花類などを低い温度で発芽を遅らせ、その出荷を遅くする手法などの実験を室蘭工大と北大の先生方と協力して行っておりましたが、今年は雪が少なかったということもあって、8月中旬くらいで融けてしまいましたが、このような取組も市の方で実験的に行って、旭川市も雪エネルギーということに対して今後も重要なものと考えております。

ので、ご理解いただきたいと思います。

男性F

一昨年前に近文第3小学校が閉校になり、その後改修し、公民館として本当にありがたく利用させていただいております。私どもも地域の唯一の施設ですので、周辺整備などに協力させてもらっております。

私どものこの地域は入植後100年が経過している歴史ある地域ですが、この地域に鬼斗牛山という標高379mの山があります。頂上まで車で登ることができ、旭川では最高の風光明媚な場所です。市長にも今年はぜひ登っていただきたいと思います。また毎年「北あかり」というイベントを行い、北からの発信ということで皆さんに呼びかけております。旭川市のはずれですが、このようなすばらしい場所がありますので、建物を建てるには非常に適したところだと思います。この地域に住宅やいろいろな施設の建設について考えるなど、旭川市のはずれにあるこの地域のことを忘れないようにしていただきたいと思います。

市長

昨年の夏に、その山を車で登り、非常にきれいだったという印象は持っております。中山間地域に指定されてるんですね。皆さん周辺の草刈りなどを一生懸命やってらっしゃるのも知っておりましたし、周辺の環境をしっかりと守っていくというのは、非常に大切だと思っております。「北あかり」もとてもきれいだというのはお聞きしておりますので、また登ってみたいと思います。

市長終わりのあいさつ

今日は皆さんからいろいろなご意見やご提案をいただきまして本当にありがとうございます。皆さんのご意見から私自身も大変勉強させていただいた部分もございました。そして、この地域を何とか元気にしていきたいという皆さんの思いが切実に感じることもできました。都市計画の問題などいろいろと課題はありますが、いろいろなイベントですとか、まち中からどうやって人に来てもらうかとか、そういった部分でも一生懸命に頑張っていきたいと思っております。ぜひ今後とも東鷹栖の美しい農村を皆さま方のお力で守っていただければと思います。私どもも一生懸命、その部分では応援させていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

今日は本当に悪天候の中お越しいただきましてありがとうございます。また何かございましたら、気軽に市役所の方にご連絡いただければと思います。今日は本当にありがとうございました。